

隨泉寺寺報

平成28年（2016年）7月号 第551号

Tel.082-892-0217 <http://www.zuisenji.com>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

安居会法座

講師 円光寺住職 谷川 修真師

講題 『本願の教え』

釈徹宗先生の『死では終わらない物語について書こうと思う』に「終活だけでいいですか？ 平安時代から今日までこの国の底流に脈打つ生と死の“物語”。日本人はこうやって死んできた」「我々は『死に関する情報』を手に入れることで目先をごまかしているけれど、無意識的深層では生き生きとした“死では終わらない物語”を求めているのではないか」「浄土があるからこの世を相対化できます。それがないと、この世界と別の価値に出会うことがありません」「なぜ阿弥陀仏が存在するのか。それは阿弥陀仏と出会わなければ、自分の本当の姿が見えないからです」



7月の法座予定

- 7月 2日……………本部役員会
- 7月10日午前8時より……………掃除 瀬野川団地・桑原
- 7月15日朝席午前9時半より……………建碑式並びに納骨法要
- 7月15日朝席午前10時より……………若い婦人の集い お齋
- 7月15日昼席午後1時より……………安居会法座
- 7月24日午後5時より……………隨泉寺ピアガーデン
- 7月29日午前9時より……………少年少女の集い
- 8月 2日午後5時より……………門信徒会本部役員会

☆浄土真宗本願寺派前門主 大谷光真著「あけぼのすぎ」

—浄土真宗一口法話— 7月

「私どもが自力と考えていること全体が他力の中にある」(本多 弘之)

◆ 親鸞聖人のみ教えは、他力で救われる教えです。ところが、今日、この他力という言葉を知ると、何か、物足りないように感じる方が多いのではないのでしょうか。自己責任、自主自立の時代に合わないのではないかと感じられるようです。◆ この世に生まれてから死ぬまで、自分ですべきことは自分でするの当たり前です。しかし、更に考えてみますと、人生には自分で自由にならない問題がたくさんあります。例えば、生老病死。生まれること、年取ること、病気になること、この世を去ることは自分で自由になりません。ですから、なぜ、老いるのか、なぜ、死なねばならないのか、納得することは易しくありません。◆ 人間は、縁に触れて、どうなるかわからない危うい生き物です。そのことを、ありのままに受け止めて、生き抜くのか、そこから逃げたり、取り繕ったり、虚勢を張ったりして生きるのか、大きな違いではないのでしょうか。◆ 他力、すなわち阿弥陀如来さまのお救いは、こういう私自身の依り所に関わると言えましょう。◆ 私のいのちの全体を根本から救ってくださるから、私が、自分の力を尽くして生きることができるようになるのです。



☆ 御礼

- 永代経懇志 金 拾万円 宮原穂波殿 故宮原 堂様 特別永代経志として
- 永代経懇志 金 拾万円 竹本礼子殿 故竹本 則之様 特別永代経志として
- 永代経懇志 金 拾万円 福田幸雄殿 故竹本 則之様 特別永代経志として

☆ 御礼

- 門信徒会へ 金 一封 宮原穂波殿 故宮原 堂様 香典返しとして

☆ 《若い婦人の集い》 7月15日午前10時より

普段なかなかお寺にお参りすることのない若い人にもお寺にお参りする機会を、ということで開催される会です。近年定年の年齢も上がり、女性に限らず体の動くうちは、仕事をするのが普通になりつつある今日この頃。お寺に行って仏様の話を聞いてみたくなるころには、体が思うように動かなくなり、お寺どころか病院ですら自分で行くことが出来なくなるのではないのでしょうか？ この「若婦人のつどい」気楽に楽しくお寺にお参りしてほしいとおもいます。



《随泉寺ビアガーデン》 7月24日（日） 午後5時より

今年もお待ちかねの《ビアガーデン》を開催します。



今年は広島カープの調子が良くて、このままいくと久しぶりの優勝という美酒が飲めそうな勢いです。ズームズーム球場へ行きたいものですが、なかなかチケットが手に入りません。せめて随泉寺のビアガーデンで、大いに盛り上がりましょう。球場に行けば一杯700円ですが随泉寺ビアガーデンは1000円で飲み放題という安さです。3年ぐらい前にはみんなで100リットル飲み干しました。今年もそれに挑戦しましょう。

《少年少女研修会》 7月29日午前9時より

夏休みが始まった早々、随泉寺で「少年少女一日研修会」が開催されます。今年で第50回となりますので、50年も続いていることとなります。最初の頃参加して下さったお子様も、おそらくおじいちゃんやおばあちゃんになっておられることでしょう。

そのことを考えると、感慨深いものがあります。

アイスクリーム作りやお念珠づくりなど、楽しい企画を考えています。誘い合わせて参加してください。



7月 カレンダー法語

東井 義雄師

「しあわせ」の中にいるのに「しあわせ」が見えない

親と子、夫婦がそろって無事に一日を過ごすことができ、六百の子どもの上にも、二十四の教室の上にも、建物の上にも、事がなく一日が暮れたということ、それがどんなに、ただごとでないことであるかを、痛感させてもらうこの頃です。



随泉寺合同墓が完成しました。

今の時代は家を継いでいくとか、お墓を守るといことが難しい時になりました。家族構成が変わって、子供も一人か二人ですし、学校が東京だとそのまま就職も向こうになって、そのうち結婚をして家を建て、残念ながらもう故郷へは帰ってこなくなってしまう。随泉寺の古くからのご門徒の中にもそういう方が何人もおられます。まだ小さいころにこの瀬野川で育った人は故郷ですが、その子供さんにとっては、瀬野川は【おじいちゃん、おばあちゃんのうち】です。そうすると懐かしさもありませんし、もちろん帰って住む場所ではありません。この瀬野川にも空き家がずいぶん増えてきました。

お墓を建てたいが後を委ねる家族がいない、子供がいても後々の負担をかけられない、かけたくない。こうした家族の変化を受けて、随泉寺では、跡継ぎを必要としないお墓『随泉寺合同墓』を建碑いたしました。時代とともに変化する私たちの暮らしのなかで、『随泉寺合同墓』は、単に新しいお墓としてだけでなく、家族や血縁を超えて人々が集い、心のよりどころとして、また大切な縁のある方々をしのぶ場所として大切に守っていきます。ついては『随泉寺合同墓』の建碑式並びに納骨法要を務めます。誘い合わせてお参りください。



建碑式並びに納骨法要

日時：平成28年7月15日午前9時30分より

場所：随泉寺境内 合同墓前